

いのちと夢の放浪記

作曲家・弓削田健介



新連載の挨拶

こんにちは。作曲家の弓削田健介と申します。僕は、日本中旅をしながら、コンサートをしたり、旅先で出会った感動をもとに、小中学生のための合唱曲を作るお仕事をしています。この連載を通して、みなさんとご縁をいただけたことをとても幸せに思っています。一年間よろしくお願ひします。

いのちと夢のコンサート

いつもコンサートの最初に歌う曲があります。それは「ハナミズキ」という歌です。歌詞の中に「君とすきな人が百年続きますように」というフレーズが、何度も出てくるのですが、僕はこの歌を何度も歌ううちに、「作った人は、この一フレーズを伝えたくて、この歌を作ったんじゃないかなあ」と思うようになりました。そしてある日「どんな歌の中にも、作った人のメッセージが隠れている」ことに、気づきました。

ただ歌を歌うのではなく、作った人のメッセージ

をじっくり考えたり、自分なりに気持ちを重ねて歌うようになった時、「歌うこと」が、以前よりもっともっと好きになりました。

普段行っているコンサートでは、「いのち」や「ゆめを持つこと」の大切さを、感じさせてくれる歌を紹介したり、みんなと一緒に歌ったりしています。いつかみなさんの街でも、お会い出来ますように。

ホスピスで教わったこと

僕の活動の原点は、小学校の先生を目指して大学に通っていた二十歳の頃に出会った、ホスピスという場所にあります。末期のがんなどの重い病気の患者さんたちに歌を聴いてもらったり、一緒に歌ったりするボランティアをしていました。

リクエストを募ると、一番人気なのが「童謡・唱歌」でした。幼い頃に歌った歌が、人生の最後の時間まで、ずっと心に残っているんだなあと思いました。それで「いつか自分もそんな曲を作ってみたい」と思うようになって、作曲家を目指しはじめました。次号ではホスピスで患者さんたちに教わった、素敵な言葉たちを紹介します。

極楽の鳥たち



イラスト/アンナ

極楽世界には浄土の六鳥と呼ばれるいろいろな美しい鳥が飛んでいて、美しい声で歌っています。

さてどんな鳥なんでしょうか。今回から順に紹介していきます。

①白鶴(びゃっこう)

白鶴は鶴または白鳥のことといわれます。白く清らかな姿と美しい声を持ちます。昔の書物には白鶴とは「鶴の種類で、足が短い鳥である」と説明がなされています。



質問

お寺の呼び方に「～じ」と読むのと「～でら」と読むお寺があるのはなぜですか。
(奈良 小六 男子)

答え

おもしろいところに気がつきましたね。奈良にある東大寺は

「とうだいじ」で「寺」を「じ」と読みますが、同じく奈良の長谷寺は「はせでら」と呼びならわします。

なぜお寺によって言い方が変わるのでしょうか。

これには確かな理由があるわけではありません。

寺という漢字は、もともと中国で役所の意味でした。それが中国に仏教を伝えるにやってきた西域のお坊さんたちを泊めたのが白馬寺という役所でした。そのうちお坊さんたちがそこに住み続けるように

なって、寺にお坊さんがいるところとなっていったようです。

日本ではもともとお寺の名前は飛鳥寺・山田寺・岡寺・川原寺のように単に地名をそのままつけていました。飛鳥にあるお寺だから飛鳥寺というふうになります。ところが天武天皇の時代に、お寺にきちんとした名前をつけなさいと決められました。それで飛鳥寺は法興寺または元興寺と、中国風に名づけられたのです。

ですから地名のついたお寺では「～でら」と読むようになってきているのではないかと思います。

熟語は訓読み+訓読み(青空・子供など)、音読み+音読み(学校・勉強など)で読むのが普通です。同じように、お寺の名前が訓読みならば「寺」は「てら」(清水寺など)、お寺の名前が音読みなら「寺」は「じ」と呼ぶように(法隆寺など)なったのではないのでしょうか。

子どものすがたをした
仏さまの使者

「善財童子」



イラスト/アンナ

むかしむかし。インドの国に善財童子という少年がいました。家がお金持ちだったので、とてもめぐまれた生活をしていました。でも勉強しないで毎日遊んでばかりいました。

ある時、これではいけない！と善財童子は気持ちを入れかえて、修行することを決意しました。そんな時に出会ったのは文殊菩薩です。文殊菩薩は善財童子に「君がこれからのように生きていくかを、いろいろな人を訪ねて、教えてもらおうとよい」とアドバイスをしました。

こうして善財童子は旅に出て五十三人もの人たちから多くのことを学びました。その中には王様もいればお坊さんやお医者さん、お釈迦さまのお母さん、船頭、芸人、商人、女性、子供などさまざまな人たちがいます。それぞれの人たちからその人にしか伝えられないことを聞き、知恵や知識を学んだのです。

そして最後に出会った普賢菩薩の教えを受けた善財童子はさとりを開くことができました。生きていく上で、出会う人、出会う人はみんな先生だということでしょう。

これも仏教の言葉だよ!

「どん欲」



どん欲は貪欲(仏教ではとんよくと読みます)と書きます。三毒煩惱(人の善い心を毒する心の働き)の一つ、また十悪の一つに数えられます。

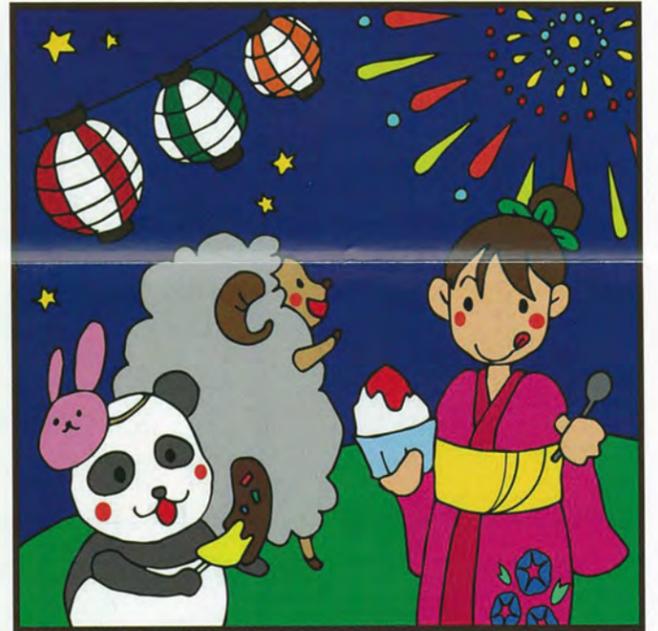
意味はとても欲が深いこと、欲張りなこと、むさぼり求める心をいいます。

どん欲に挑戦したい、どん欲に知識を得るなど、プラスの意味で使われる場合もあります。その場合は、現状に満足せず意欲を持つという意味でしょう。

このように良い意味にも、あまりよくない意味にも使われる言葉は、使う時に注意が必要ですね。

ちがいがし

みんなよう
考えよう



絵：岡本こすえ

今回のちがいがしは「花火大会」。

右の絵と左の絵の違いを5つ見つけてください。

ハガキに答えを書いて左記まで送ってください。正解者の中から抽選で30名に記念品をお送りします。記事の感想や意見もいっしょに書いてくださいね。

しめきり9月15日です。

送り先

〒833-0013

筑後市北長田706-2

林鐘院内

浄土宗児童教化連盟事務局

TEL 0942-5215524

FAX 0942-541189

前回の答え



お知らせ

みなさんからの記事を待っています。学校でのこと、家の中でのこと、家族のこと、友だちのことなどを書いて送ってください。またみなさんからの作品も待っています。絵や作文、お習字など何でもけっこうです。

◇送り先は 〒833-0013 筑後市北長田706-2 林鐘院内 浄土宗児童教化連盟事務局

TEL 0942-5215524 FAX 0942-541189

感想もいっしょに書いてくださいね。

ぶくぶく編集室



みなさんはどこから情報を得ますか。

新聞やテレビ、雑誌からでしょ

うか。先生やお

父さんお母さん、家族のだからでしょうか。また友だちからも自分の知らない情報を知ることがありますね。

でも何といっても今はインターネットが情報源という人が大変多いようです。ネットはわからないことがないくらい情報があふれています。

でもごくたまにデマやニセモノの情報があつて、大きな迷惑を受ける人がいます。それもブログやツイッターなどですぐに拡散され広い範囲に誤った情報が流れていくのです。とてもこわいことです。私たちは顔の見えないところからいろいろな情報を得ていますが、いったん間違つた情報はなかなか取り消せません。発信する方も受ける方も十分に注意する必要がありますね。